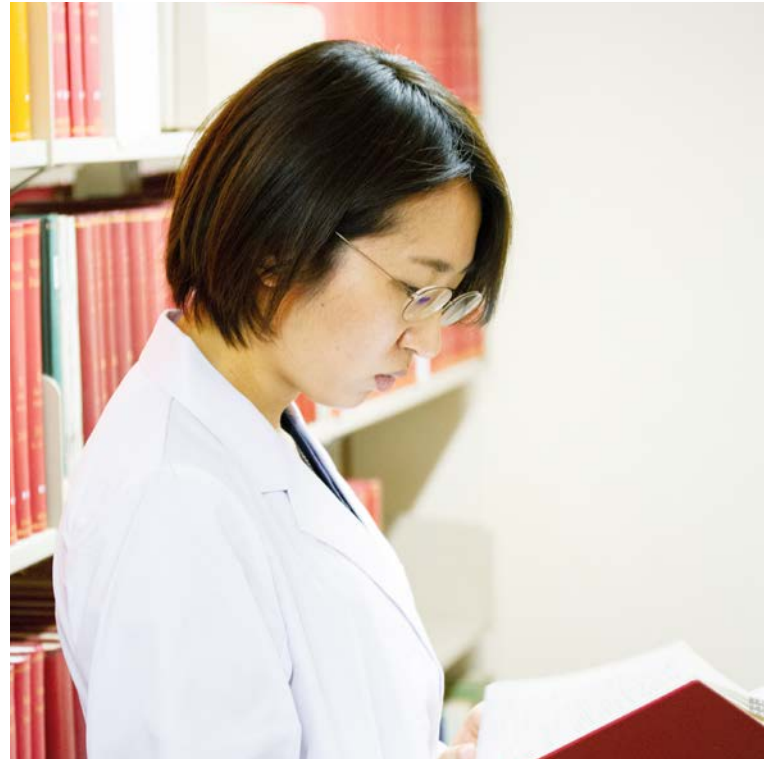


## “女性ももっと気軽に受診できる科に”



### Kanako Matsuoka

松岡 香菜子  
泌尿器科学講座 助手

#### 広く深い、泌尿器科の魅力

— どうして医師になろうと思ったのですか。

私も家族もとても健康で医者にかかる機会ほとんどなく、医療や医学は私の知らない世界。だからこそ逆に興味、面白さを感じました。もともと理系が得意だったこととやりがいのある仕事という認識が決め手になりました。

— 福島医大を志望した理由を教えてください。

なんとなく人が穏やかそうな東北地方に行

きたいという願望があり、地元の千葉にも比較的近くて初めての一人暮らしには最適だろうと土地柄を選びました。当時は、どこの医学部がどんな特徴があって何を得意としているかといった知識がなかったものですから。でも、基礎研究も盛んという点で、この大学にしたことは結果的にいい選択だったと思っています。

— 卒業後、地元に戻らなかったのですか。

地元に戻っても医療人の知り合いはおらず、私の医師としての地元は福島だと思っています

## 目の前の患者さんのため、未来のため。

子どもから高齢者まで、内科も手術も担当する泌尿器科。その守備範囲の広さに魅力を感じてこの科を選んだという松岡先生。今診えている患者さんも未来の患者さんも治したいと、外来診療と大学院での研究の双方に力を注いでいる。

す。福島はとても住みやすいし人は優しいし、離れるという選択肢は私の中には全くありませんでした。震災によって、福島への思いはより強くなりました。両親も「あなたはずっと福島のためにがんばりなさい」と言ってくれています。

— どんな研修医時代を過ごし、なぜ泌尿器科を選択したのですか。

初期研修の2年間は東北の公立病院で研修し、3年目に福島医大に戻って入局しました。私、とにかくいろんなことに興味があって、専門を決める際にもギリギリまで迷いました。泌尿器科と聞くと患者さんは男性ばかりというイメージがあるかもしれませんが、泌尿器科は尿路全般を診る科なので子どもから高齢者まで、幅広い年代を診ますし、女性の患者さんも少なくありません。また、泌尿器科はロボット支援手術をいち早く導入し、低侵襲手術を多数行っていることも魅力の一つでした。患者さんの層が広く、内科的にも外科的にもアプローチできる、あれもこれもやりたい私にはやはり泌尿器科が一番魅力的に思えました。

— 女性の泌尿器科医は少ないと聞きますが、抵抗はありませんでしたか。

泌尿器科の先生方はとても仕事に真面目で爽やかな方が多く、私はなんの抵抗も偏見もなく入局しました。意外かもしれませんが、全国的には女性の泌尿器科医は増えていて、福島県でも最近では毎年のように女性医師が泌尿器科を専攻しています。出産経験のある女性の2人に1人が尿失禁などのいわゆるおしっこトラブルを抱えていると言われていますが、治療法があることすら知らずに耐えている女性もいるようなのです。女性がもっと気軽に泌尿器科を

受診できるようにするためにも、女性の泌尿器科医がもっと増えてほしいと思っています。ちなみに、福島医大病院では「女性のための泌尿器科外来」を開設しており、女性医師による診察を希望することもできます。

#### 研究マインドのある臨床医

— 今後の課題や抱負を教えてください。

私は現在、大学院に所属して、週1回の外来と並行して基礎研究や臨床研究を行っています。目の前の患者さんも治したいし、未来の患者さんも治したい、常に研究マインドを持った臨床医が私の理想です。指導医の先生からも今の患者さんを診ながら医療を発展させていかなければ、と教えられました。そのためには、専門医としての知識と経験を積み、大学院では、臨床に役立てられる、治療に還元できるような研究成果を上げたいと思っています。

— これから医師を目指す後輩たちにメッセージをお願いします。

学生の時から社会性を身に付けることはとても大切です。医師はずっと人と関わる仕事、人を診、社会を見る仕事です。人に興味を持ち、世の中にはさまざまな人がいることを受け入れて、どんな人にも優しく接することができるように、学生のうちから色々な人々と出会って、見聞を広げてください。



松岡 香菜子

まつおか かなこ / 千葉県香取郡神崎町出身。平成25年度本学医学部卒業。公立藤田総合病院で初期研修修了。平成28年4月本学泌尿器科学講座へ入局。専攻医を経て現職。